

油彩

(テンペラ併用)

メタルポイントで描く①

三浦明範の静物画講座

みづらあきのり 1953秋田 東京芸大卒業 文化庁主催現代美術展、セントラル美術館
 油絵大賞展、昭和会展、安井賞展、具象絵画ビナーナール、日本の絵画新世代展、両洋の眼・現
 代の絵画展、21世紀の旗手展などに出品 文化庁芸術家在外研修員としてベルギーに滞在(96
 ~97) 春陽会会員



(図1) ヤン・ファン・アイク「カルディナル・アルベルガティの肖像」1431年。
紙にシルバーポイント。



(図2) ヤン・フーケ「聖職者の肖像」
紙にメタルポイント。

この連載7回目(昨年7月号)

で、銀筆での制作をしました。その後、質問が寄せられたりしましたので、もう少し詳しく説明してみたいと思います。また今回は、銀筆だけではなく、色々な金属による、メタルポイント(金属尖筆)全般にわたって述べていきます。

■メタルポイントとは

メタルポイントとは、銀筆を始めとする、金属を先端に使ったドロ잉材料のことです。これらは、鉛筆が登場するまでデッサンの材料として、重要な位置を占めていました。その最盛期は、16世紀頃で、昔日の巨匠たちの優れた銀筆などのデッサンが残されています(図1、2)。

しかし次第にその用例は少なくなり、レンブラントの「サスキア」(1635)の肖像画は、その当時としての最後の秀作とも言え

る作例です。

その後は僅かながら、筆記用具としてや、羊皮紙に描かれたミニアチュールの下絵として使われたにすぎなくなっていました。これは、テンペラから油彩への移行とシンクロしています。すなわち、テンペラのハッチングでの表現とメタルポイント、そして、油彩の面での表現と木炭やブラックチョークが、それぞれ対応していることによるものです。

長い空白期間を経て、19世紀末になってから、その独特な味わい深い色調が見なおされます。そして、銀筆の手引書が出版され、絵具メーカーが銀筆や専用の紙を製造、販売したりしました(ウインザー&ニュートン社)。しかし、第二次大戦後は、また省みられなくなっていたのです。

日本ではこれまで、その存在自体、紹介されることがほとんどな

かったのですが、古くて新しい魅力的な素材として、再評価されても良いのではないかと考えています。

■支持体とラレレーション

メタルポイントについては、チエンニノ・チェンニニ(イタリア1400年頃)の「芸術の書」にその技法が紹介されています。それによると、鳥賊の骨で擦って磨いた黄楊の板を用意し、それに鶏の腿や手羽の骨粉を唾液で捏ねたものを擦り込み、その上に描くとしてあります。また、板の代わりに、羊皮紙や紙でも良いとされています。

しかし、これらの手法で描かれた多くの作品は剝落の憂き目に遭い、現在はあまり残っていません。現在はあまり残っていません。唾液で接着するより、骨粉に膠着材を添加した方が良いのは、当然のことです。現存する作品の多く

(表1) 各種の下地とメタルポイントの有効性

下地の成分	メタルポイント							
	銀	銀・銅 *1	銅	真鍮	鉛	鉛・錫 *2	アルミニウム	鉄
石膏 (硫酸カルシウム)	可	可	可	可	良	良	可	劣
天然白亜	可	可	可	可	優	優	劣	劣
炭酸カルシウム	可	可	可	可	良	良	劣	劣
カオリン	優	優	良	良	優	優	優	劣
チタニウム・ホワイト	優	優	優	優	優	優	良	劣
石膏+チタニウム (2:1)	可	可	可	可	良	良	劣	劣
炭酸カルシウム+チタニウム (2:1)	可	可	可	可	良	良	劣	劣
カオリン+チタニウム (2:1)	優	優	良	良	優	優	優	劣
アクリリック・ジェッソ (市販品)	可	可	可	可	可	可	可	劣
アクリリック・メデイウム+チタニウム	優	優	良	良	良	良	優	劣

*1 銀口ウ : Ag/45%, Cu/15%, Zn/16%, Cd24%

*2 半田 : Pb/55%, Sn/45%

は、紙や羊皮紙に、骨粉や白亜、鉛白などを膠や乾性油で練ったものに描かれたものです。支持体として可能な材料は以下のとおりです。

- 羊皮紙…今日では手に入れることは困難。
- parchment、パーチメント、vellum
- ベラムとは仔牛の皮。
- 板…今日的には合板(シナベニヤ、ハード・ボード他)などが適当。
- 紙…パネルに水張りして使用する。イラスト・ボードなども可。
- 布…麻布、綿布など。

これらの表面に、プレパレーションを施しますが、以前の処方ではアクリル・カオリン地でしたが、私のその後の研究で、チタニウムが最も良好な結果を示し、次にカオリン、白亜、そして炭酸カルシウム及び石膏の順で、その表現は瘦せたものとなるようです(表1)。前述の骨粉は成分が炭酸カルシウム(及び磷酸カルシウム)です。今日ではより優れた材料が出現したことになります。また、アクリリック・ポリマーを使用した下地は、市販のものよりチタニウムなどを使用した自家製の方が良好でした。

もちろん、他の材料が不可ということではなく、薄い色味にもそれぞれの味わいがありますが、これらの方がより滑らかな描き味とコントラストが得られるという点です。

今回は下記の処方で行います。

- 支持体…F8号のMDFボード
- プレパレーション…7%膠水にひたひたのチタニウム・ホワイト
- これを縦横4度塗りします。チタニウムは隠ぺい力が強く、少量で真っ白になります。そのため厚塗りする必要はありません。

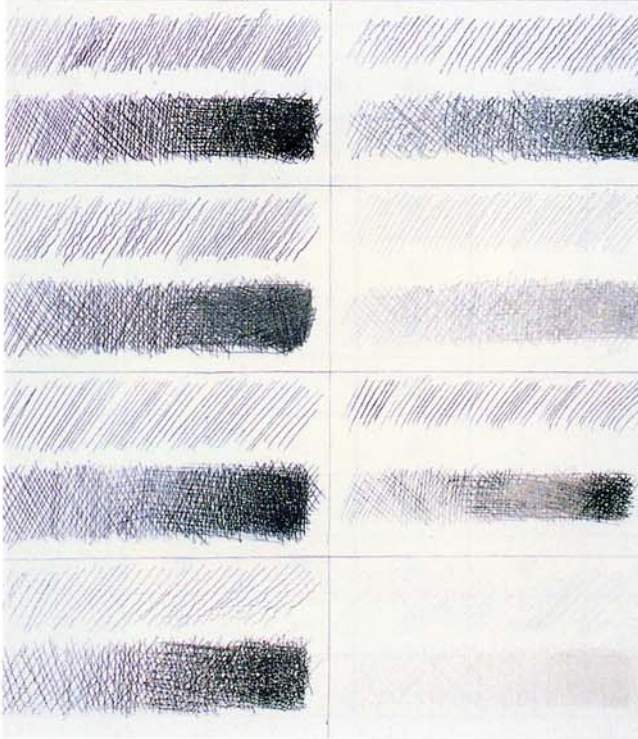
また、仕上げにサンドペーパーをかけると、細かな傷が出来てしまいますので、固く絞った濡れ雑巾で軽く磨いて終了します。

■メタルポイントの準備

最近の研究では、西集やカタログなどに記載されている「銀筆」とは、実際は純銀ではなく、他の金属との合金であったり、銅や真鍮、またはブロンズであったりする場合があるようです。資料として残っている物が銀筆であるため、すべてが銀であると解釈されてしまったようですが、他の金属尖筆もそれぞれの美しさを持っています。

膠-鉛-ウム

- ① Ag ⑤ Pb 55% . Sn 45%
 ② Cu ⑥ Al
 ③ Cu . Zn ⑦ Ag 4% . Cu 15% . Zn 16% . Cd
 ④ Pb ⑧ Fe



(図4) 色々な金属による、メタルポイントの効果。
 左上から、銀、銅、真鍮、鉛、鉛-錫合金、アルミニウム、銀-銅合金、鉄。



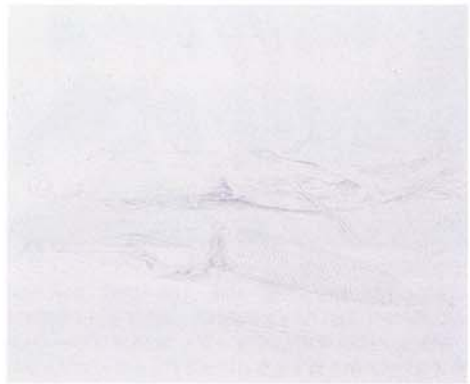
(図3) 各種金属線

- すので、むしろ積極的に使用されたと考えられます。
- 銀は、空気中や紙に含まれる硫黄分と化学反応を起こし、次第に硫化銀に変化していきます。そのため、描いた直後は淡い色調ですが、年月を経るに従い、次第に黒褐色に変化していきます。また、銅やその合金も、僅かながら変色していきます。
- これらの変化は、近年の大気汚染の影響で、従来、1年、2年という単位であったものが、1、2ヶ月の間に変化してしまう傾向にあります。
- 左記に挙げるのはメタルポイントに使用できる、手に入れやすい金属です(図3)。
- 1 金…純金は24カラットとして示され、18Kあるいは14Kはそれぞれ金の含有量がおよそ75%と58%。いずれも変色なし。
 - 2 銀…最も代表的なメタルポイント。銀筆。黒褐色に変化。
 - 3 鉛…大変軟らかく、鉛-錫合金とともに、プレパレーションを施していない紙の上にも描ける。ほとんど変色なし。
 - 4 錫…明るい黒色。ほとんど変色なし。
- 5 鉛-錫合金…半田として入手。鉛と同様。
 - 6 銅…赤みを帯びた黒色。緑みを帯びた色に変色。
 - 7 真鍮…黄みがかつた黒色。緑灰色に変色。
 - 8 アルミニウム…明るい灰色。変化なし。
- これらの金属線を芯ホルダーにはさんで、先端を耐水ペーパーなどで研磨します。あまり先端を尖らせず、やや丸みをつけた方が描き易くなります。
- 制作**
- 今回は、トウモロコシを描いてみます。
- 私の家の周りにはまた田や畑が残っていて、農家の門前には無人の売店があちこちにあります。夏は、もぎたてのトマトやきゅうりとともにトウモロコシが並んでいて、つい買ってしまいます。
- スーパーで買うトウモロコシは、周りの皮やヒゲが半分切り取られていることが多いのですが、今回のテーマは、この、いつもは捨てられてしまう部分の面白さです。
- 1 今回は、真鍮尖筆で描いてみます。真鍮は、銅より硬く、銅

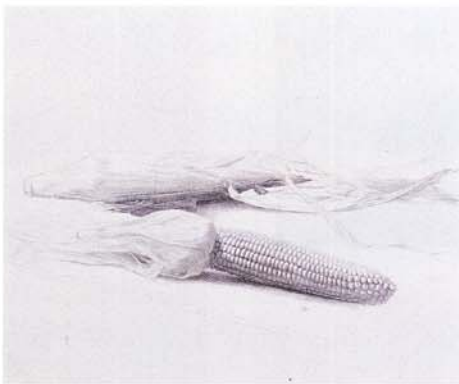
モチーフ写真



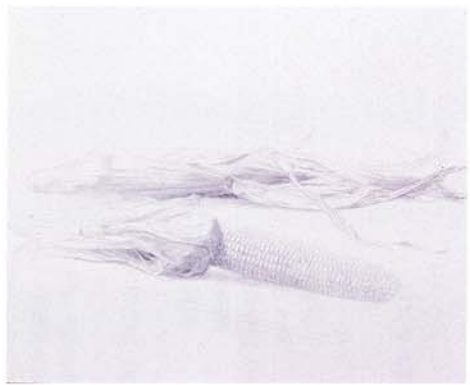
(制作過程1)
軽く力を抜いて形の見当をつける。



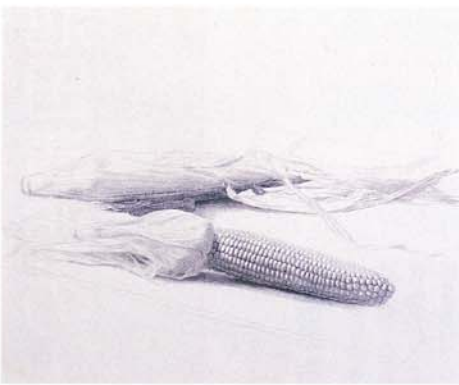
(制作過程3)
右利きなので、左上からの斜め線で描き始めるが、暗くしたい部分は、右斜め、縦、横と、線の集積を多くしていく。かなり黒くしたい部分は、次第に力も強めていく。



(制作過程2)
正確な輪郭が取れたら、陰影を付けていく。



(制作過程4)
大まかなトワモロコシの表現が出来上がる。



は銀より硬いので、少し薄い表現になりますが、皮の微妙な表現には向いているかもしれない。最初に向く見当のための線は、出来るだけ力を抜いて、かすかに見える程度にします。一見、銀筆とほとんど同じに見えますが、やや黄色みがかった調子で、しばらくたつと銅と同じように緑青が発生しますので、やや緑がかってくるはずです(制作過程1)。

2 大体形が取れて来たら、次第に線を集積していきます。鉛筆と異なり、濃さ、太さが一定のため、線の疎・密により、陰影を表現していきます。始めは薄く、だんだん濃くしていきますが、決して力を入れ過ぎないようにします。プレパレーションに窪みが出来てしまうと、その部分が滑って、それ以上メタルポイントに乗らなくなるのです(制作過程2、3)

3 トワモロコシはほぼ形が出来上がりました。背景を残してあるのは、他の材料との併用を考えているからです(制作過程4)。併用の方法は次回に。